

## 【発表概要】

「もっともつとをモットーに！！～夏太郎、旭桃にとってのモットも解を求めて～」

宮崎県立高鍋農業高等学校

前回大会で明確になった「後期の増体改善」を目指し、【柱1】快適な環境作り、【柱2】暑熱期の飼養管理の工夫、【柱3】牛の状態の細かな把握、の3つに取り組んだ。

【柱1】は牛床の管理。除糞を毎日行い、一定期間ごとに発酵促進と消臭効果のある生菌剤を散布。10月から5月までは戻し堆肥をのこくずと混合し、発酵熱による殺菌・暖房効果を実現。6月から9月まではのこくずのみを使用して乾燥を維持。【柱2】ではファンや細霧などの冷却に加え、稲わらを短く切断してルーメン発酵時間抑制による暑熱ストレス低減を狙った。また、重曹や強肝剤、ゼオライトを給与して食欲増進を図った。【柱3】ではエコーによる肉質診断や聴診器による呼吸音検査、毎日のブラッシングに挑戦。また、牛の状態把握と早期対応を皆でできるよう毎週ミーティングを開催。

これらの結果、増体を改善させることができた。その他、6次産業化や食育にも取り組んでいる。宮崎牛の価値向上と普及に貢献するためにこれからも“もっともつと”の精神で挑戦していく。

(439字)